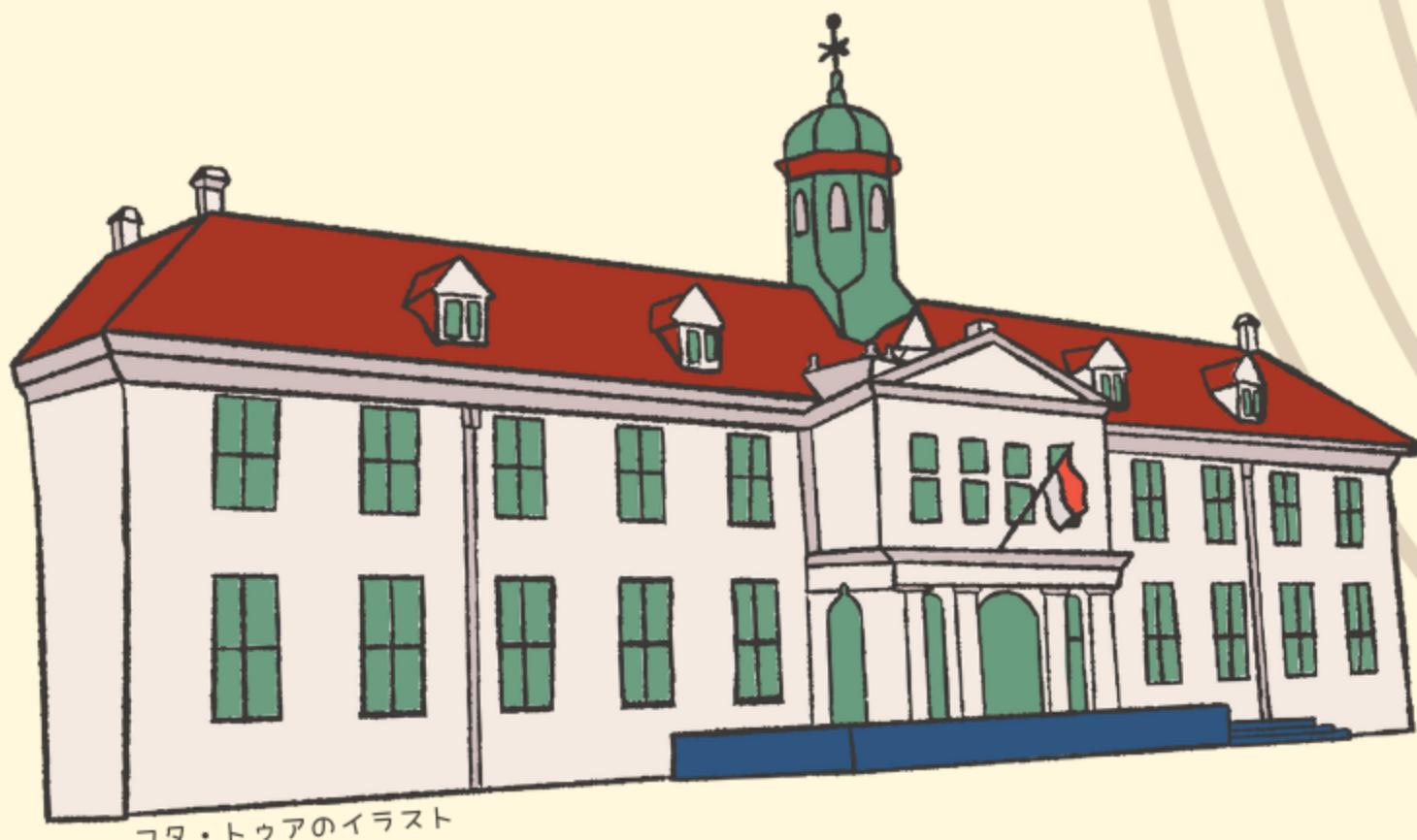


ジャカルタの ジャアイコン

コタ・トゥア



コタ・トゥアのイラスト

タマン・ミニ



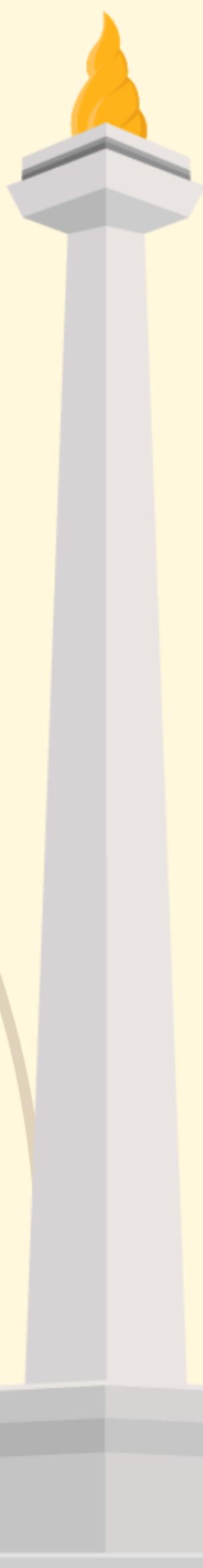
タマン・ミニのイラスト

オンデルオンデル



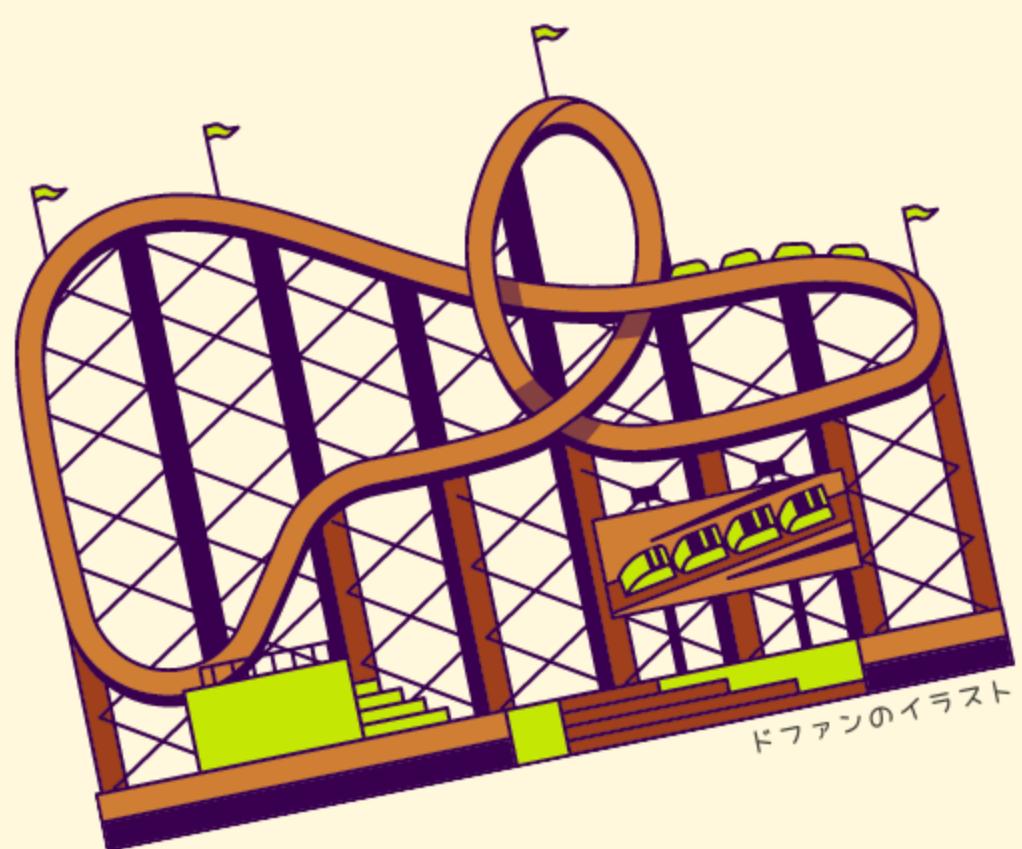
オンデルオンデルのイラスト

モナス



モナスのイラスト

ドファン



ドファンのイラスト

ジャカルタの国定記念物「MONAS」

モナスは、ジャカルタにあります。インドネシア独立の象徴です。モナスは、モニュメント・ナショナルの略で、インドネシアの国家的な記念碑です。モナスは、モニュメントの高さがあり、日本の東京タワーと同じ高さです。モナスは、インドネシアの独立を記念して、1941年に建てられました。

モナスは、インドネシア人にとつての誇りで、国民の結束を象徴する重要な存在です。以上のようにモナスは、インドネシアの独立を象徴する重要な存在で、多くの人々に愛されるシンボルです。



モナスのイラスト

モナスは、インドネシア独立の歴史を象徴しており、その中には、インドネシアの独立宣言を行ったスカルノ大統領の演説を行われた場所、独立広場も含まれています。また、モナス内部には、インドネシアの歴史や文化を紹介する博物館があります。多くの観光客に人気があります。

クリスタル・カリスタ



Kerak Telorのイラスト

ジャカルタのコタ・トゥアを検索する

過去と未来を結ぶ！

コタ・トゥアは、ジャカルタの中 心部にあります。コタ・トゥアと は旧市街という意味で、その名の 通り、17世紀から18世紀にかけ てのオランダ植民地時代に建てら れた古い建物が残っています。こ れらの建物は、現在、ジャカルタ で非常に人気のある歴史的な観光 スポットとなっています。



ファタヒラ博物館以外にも、 歴史あるジャカルタ大聖堂教 会を訪れることがで きます。この教会は一九〇一年に建て られ、当時はジャカルタで最 も壮麗な建物の一つでした。 ジャカルタ大聖堂教会は現 在も現役で使用されており、ジ カルタのカトリック教徒の お祈りの中心となっています。

コタ・トゥアの有名な観光ス ポットのひとつにファタヒラ 博物館があります。この博物 館は、一七一〇年に建てられ たかつてのジャカルタ市役所 の建物内にあります。この博 物館には、家庭用品、宝石、 武器、歴史的文書など、ジャ カルタの歴史にまつわる品物 が展示されています。

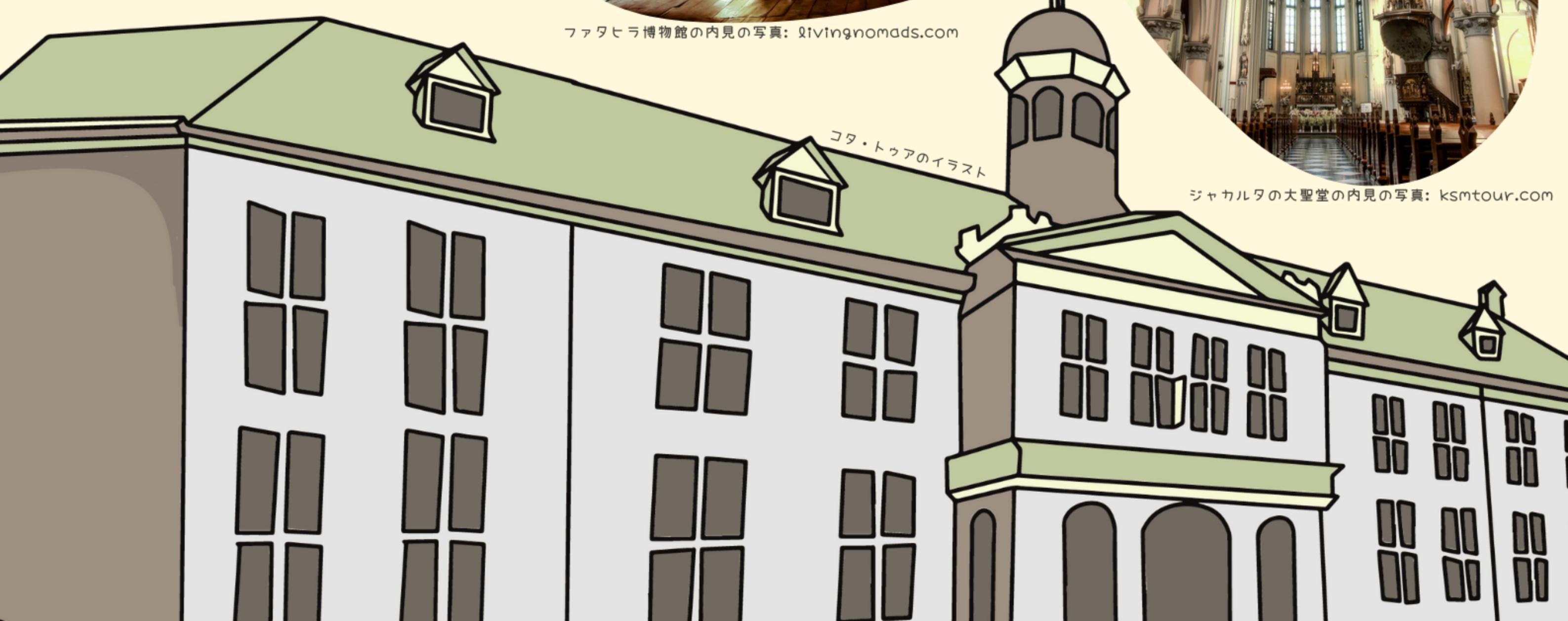
コタ・トゥアにはたくさ んの魅力があります。ジ カルタにお越しの際 は、旧市街で昔ながらの ジャカルタの雰囲気を味 わってみてはいかがでし ょうか。



ファタヒラ博物館の内見の写真: livingnomads.com



ジャカルタの大聖堂の内見の写真: ksmtour.com



遊園地は旅行の選択肢の一つです。若者から老人まで、多くの人が遊園地に行きます。ほとんど

の人は友達、恋人、家族と一緒に遊園地に行きます。インドネシアのジャカルタには有名な遊園地があります。遊園地はDUFANと呼ばれます。「DUFAN」とは「Dunia Fantasi」の略で、日本語でファンタジーの世界という意味です。

DUFANは北ジャカルタのアンチヨーレにあります。1985年から運営されています。DUFANにはライドがたくさんあります。レストラン、グッズショップ、アーケードゲームもいくつもあります。

最も過激なライドはTornadoと呼ばれるライドです。これらのライドでは、ライドのシートが突然空に向かって360度回転します。さらに、五歳から十二歳までの子供に特別に設計された「CHILDREN RIDES」エリアもあって、水

遊びができる「WATER RIDES」エリアもあります。

今でもDUFANはジャカルタのにぎやかな観光地になっています。



ジャカルタの多様性

Taman Mini Indonesia Indah

Taman Mini Indonesia Indah: インドネシアの文化的多様性を 1 か所で探索

Taman Mini Indonesia Indah (TMII) は、東ジャカルタにあるインドネシアの有名な観光地の 1 つです。1975 年にオープンした TMII は、インドネシア文化の多様性を国内外の訪問者に紹介し、促進することを目的としています。



インドネシア博物館写真:
www.tamanmini.com

それとは別に、TMIIにはさまざまなアトラクションやその他の施設もあります。インドネシア博物館も、インドネシア全土の芸術品、工芸品、文化工芸品のコレクションを展示している興味深い訪問場所です。インドネシアの歴史と美しさに関するドキュメンタリーを上映する Keong Emas IMAX シアターもあります。これは訪問者にとってインドネシアの文化生活を直接体験する絶好の機会です。長年にわたり、TMIIはジャカルタの主要な観光スポットの 1 つになりました。観光地としてだけでなく、教育研究の中心地としても機能します。

TMIIの歴史は、当時のインドネシア大統領、スカルノの発案から始まりました。彼は、一般の人々が簡単にアクセスできる 1 つの場所でインドネシア文化の多様性を説明するというビジョンを持っていました。インドネシアの建築家やアーティストのチームの協力により、TMII はインドネシア文化の美しさと豊かさを反映する記念碑的な作品になりました。

TMIIに入ると、訪問者は群島門の壮大なレプリカに迎えられます。門をくぐると、訪問者はインドネシアの 34 州の文化を説明する旅に連れて行かれます。各州は、各地域の特徴的な建築、伝統、ダンス、手工芸品を展示するミニチュア パビリオンで表されます。



ミニチュア パビリオン
写真: www.tamanmini.com

Keong Emas のイラスト

オシテルオシテル

アサド

「オンドルオンドル」は古代ベタウイの芸術作品で、オンドルオンドルはもともと「バルン」という名前で、その後「バロンガン」となり、バロンガンは一人でやれる芸術ではないため、ベタウイ語でグルトープや集団という意味になりました。

「オンドルオンドル」は、このようなくリソライトケナンガ、ランブリタンやカボックの木などの良質な木材で作られたマスクと、籐や竹で作られたフレームワークを持つ $250 \times 80 \times 80$ センチメートル測定単純な大規模な人形の形で巨大な人形のペアです。

「オンドルオンドル」はもともと、祖先の靈に捧げる儀式を行うための人々の神聖な儀式活動の一部でした。かつては、割礼の花嫁行列など、行列を盛り上げるために使われることが多かつた。男女一対で担ぐのが一般的で、後にジャカルタ市のアイコンのひとつとなりました。

現在でも、「オンデルオンデル」は、芸能や装飾の形で見ることができます。装飾の要素として発展してきたオンデルオンデルは、建物やイベントステージを飾る大きな人形としてだけでなく、文化観光の一環として、また人々の生活の充足として位置づけられておりことがわかります。また、産業界を支える土産品としても、オンデルは注目されていることがわかります。大きなサイズだけでなく、「二次元、三次元」の小さなサイズもあり、ジャカルタやベタウイを象徴するお土産として持つて帰るのに適しています。

